

333) バレンタインデイの夜

夜更^{よふ}けの街を駅へ急ぐと 市場通りのゴミ置場には
回収前の段ボールなど 山と積まれて明日を待ってる
ふと目をやるとうずくまっていた 小さな影が少し動いた
女が愛を告白する日 バレンタインの夜が更ける

寒さの中でボロをまとった ^{ろうば}老婆がひとり何かしている
よくよく見ると誰が捨てたか まだ生命あるカネーションの
ひとつひとつを整え直し ひび割れた手で束にしていた
いったい誰に捧げるのだろう バレンタインの夜は更ける

若い頃にはこの老婆にも 華やかな日があっただろう
恋もしたろう彼もいたろう ただ倖せが薄かっただけ
なぜ神様は老婆をいじめ こんな世界に落とし込んだの
誰にも救えぬ人生があり バレンタインの夜が更ける

物乞^{ものご}いもせず街の片隅 ただひっそりと生命をつなぎ
だけどきっと心は王様 ^{そくばく}束縛もなく自由に生きる
明日を信じて生きてゆけたら 世俗のものは何もいない
なぜ人生は哀しいのだろう バレンタインの夜が更ける